

お米を通しての色々な場面を学習し

工夫して描きましょう

「ごはん・お米とわたし」絵画の部茨城県審査委員長 三好義章

コロナ禍により、45回展は中止になりましたが、46回展の応募者は小学校3242点、中学校162点、計3404点で44回展より930点余少ない出品でした。また、全国的にも出品が減少したのではないかと推測されます。今回全国展が実施され絵画の部で各部門から優秀賞を受賞されましたこと本当におめでとうございます。

全国展優秀賞（図画一部）・JA茨城県中央会会長賞（最優秀賞）の山口翼さん（筑西・鳥羽小・小一）「ぼくのおとうさん、おかあさんの田んぼ」は、明るい日差しの田んぼの中、田植え機とおにぎりを囲んで楽しく食事をしている様子が生き生きと描かれています。色彩が綺麗です。

全国展優秀賞（図画二部）・茨城県知事賞（優秀賞）の荻野花乃香さん（つくば・島名小・小五）「初夏の田植え」は、学校行事の田植えの様子をお友達3人の動きを軽やかに描くため体操着や帽子の明暗をしっかりと表現し立体的に捉えています。配色も美しい。

全国展優秀賞（図画三部）・茨城県議会議長賞（優秀賞）の北村龍之介さん（結城・結城中一年）の「おにぎりしか勝たん!!」、は、部屋の中の様子とおばあちゃんと思われる人がおにぎりを作り食べている子を微笑ましい姿で見る光景がしっかりと描かれています。物の配置がしっかりと描かれています。

茨城県教育委員会教育長賞（優秀賞）の田村柚子さん（筑西・川島小・小六）の「ほかほかご飯」は、食卓風景を食事の豊かさやご飯の盛りの違いもよく観察され、顔の表情、台所の様子、洋服のカラフルさが楽しい食事を想像させてくれます。

茨城新聞社長賞（優秀賞）の池田惟吹さん（神栖・神栖一中三年）の「祖父と田植えする家族」は、雨上がりの大自然の中で、祖父を中

心にして息子さんと思われる方と田植え機を使って田植えをする様子が、雨ガッパを立体的に表現することで強調し、人物の配置も考えられ良かったと思います。

茨城県農業会議会長賞（優秀賞）の谷島あかりさん（筑西・竹島小・小四）の「わたしがおにぎりにぎったよ」は、明るい色彩の中でおにぎりを楽しそうに握っている様子が生き生きと表現されています。

NHK 水戸放送局長賞（優秀賞）の戸頃 敦さん（茨城・下館一高附属中・中一）の「水田うるおう春の代かき」は、代かきをする人物を大きく丁寧に描いて配し、耕運機と背景に筑波山を組み合わせ構図を引き締めています。

茨城放送社長賞（優秀賞）の香取祐理さん（ひたちなか・外野小・小二）の「しあわせのめぐみにかんしゃ」は、稲の収穫の時期の様子と家の中でみんなでおにぎりを握っている様子が楽しく描かれています。

日本農業新聞東京支所長賞（優秀賞）の川村彩月さん（筑西・関城西小・小三）の「おどりの発表会の前に ぱくっ」は、発表会の豪華な衣装とお弁当のおにぎりを楽しく食べている様子が生き生きと描かれています。

家の光協会関東甲信越普及文化局長賞の中川來希さん（筑西・関城東小・小四）の「キャンプでごはん」は、キャンプに参加し、美味しくできたカレーをほおぼる姿が元気に大きく描かれています。配色が綺麗です。

今年の審査を通して皆さんの作品から感じられる審査上の注意点を述べておきたいと思います。それは、できるだけ現場の経験をしてください。作品にリアリティが少なくなってきたように思います。また食事場面の作品が多くなっていますが、せんべい、お餅を使った食事、販売、お店屋さんとか、身近にあるお米に関係したものを探しては、どうでしょう。そこで、次の様なことに気をつけて、来年も素晴らしい作品を出品されることを期待します。

- ① 現場を経験してほしい。
- ② 何を描きたいのかをしっかり持ち、いくつかのアイデアを

実際にスケッチしてみて、検討する。

- ③ いろいろな場面に出会った時に受けた感動を表現して下さい。
- ④ お米に関っている人物の動きを描くのも大切ですが、どんなところで作業しているか周囲の様子を描くのも作品をよく見せる効果です。
- ⑤ その作品に合った色彩を考えることも大切です。どんな作業をしているのかその時の洋服の様子は、シミ、汚れなど苦労の様子が絵の中からくみ取れる作品を。

最後に、指導された先生方はじめ保護者の皆様に感謝申し上げますとともに今後ともご協力くださいます様お願い申し上げます。